



野幌森林公園より札幌市全景 2003.10.28.



北海道100年記念塔 2003.10.27.

北海道 百年記念塔
高さ 100メートル

昭和 45 年 9 月完成
構造 耐候性高張力鋼板による 鉄骨構造
鋼材使用量 約 1500 トン

札幌の東端 野幌の森 その札幌を見下ろす丘陵地に北海道の大地を従えるかのように森にしっかり根をおろし、その尖塔を大空に突き上げている実に雄大な鉄塔がある。

昭和 43 年が北海道開拓百年に当たるのを記念して昭和 45 年 9 月に完成した塔である。

大阪万博も昭和 45 年。同じ時に当時の最先端鉄鋼材料を使った鉄のモニュメントがあり、激動の日本の高度成長が始まる。

私が鉄鋼会社にかいったのが、昭和 43 年。

一番先に勉強したのが、この塗装を必要としない含銅耐候性鋼板。チャコール色の緻密な膜が鋼材を保護。チャコールの惚れ惚れする綺麗な色だ。

鉄が自分をアピールする自己色・光としては「閃光」そして「くろがね」の「肌光」があげられるが、もう一つあるとすればこの耐候性鋼が放つ「錆」の落ち着いたチャコールと僕は思っている。



街であまり見ないが メンテナンスのしにくい山間部の橋梁などに使われその耐食機能を発揮している。でも この耐候性鋼 サビが付着安定するまでに時間が必要で それまでは サビが流れ出し、まわりを汚すので無塗装での使い道がその後伸びず苦労した材料。



早く肌が、早く安定すれば・・・と良く言っていたのを思い出します。

この開拓記念塔は、しっかりと大地に根をおろし、その尖塔を天空に突き上げ本当に堂々とした晴れの姿。建設後 30 余年を経て、チャコールの肌が安定して素晴らしい姿である。

「なんともいわれん ええ色なんや、しかも自己修復昨日をもった。。。。」と良く恩師から聞かされた含銅鋼の素晴らしさや当時開発に携わった溶接技術の事など、思い出しながらうれしくなって一時間ほどその周りをウロウロしていました。

今機能性やメンテナンスフリーそして、自己修復機能材料がもてはやされているが、その最初の機能性構造用鉄鋼材料である。

野幌森林公園 2003.10.29.

札幌市街遠望



記念塔周辺



野幌の森に入って

